

内外の化学繊維生産動向

－ 2013年 －

2014年3月17日

日本化学繊維協会

本資料の2013年の数値は、至近の発表値をもとに日本化学繊維協会
で推定したものです。

1. 世界の繊維生産

表-1 世界の主要繊維の生産

(1000ト)

	全繊維	化学繊維		綿	羊毛	絹	
		合繊	セルロース				
2007	68,666	41,244	38,171	3,074	26,030	1,221	171
2008	64,346	39,633	36,915	2,718	23,400	1,191	121
2009	65,451	42,323	39,366	2,958	21,896	1,104	127
2010	73,750	47,611	44,421	3,190	24,872	1,127	140
2011	79,352	50,819	47,230	3,589	27,284	1,117	132
2012	83,645	55,521	51,192	4,328	26,880	1,111	134
2013	85,664	58,785	53,957	4,827	25,640	1,104	135
13/12(%)	2.4	5.9	5.4	11.5	-4.6	-0.6	1.0
構成比(%)	100.0	68.6	63.0	5.6	29.9	1.3	0.2

日本化学繊維協会推定

綿、羊毛は季節年度

- 2013年の世界の主要繊維生産（推定）は前年比2%増の8,566万トと史上最高を記録した。しかし伸び率は、綿の生産が減少したことから3年連続で縮小した。
- 化学繊維は前年比6%増の5,879万トと過去最高となった。うち合繊（オレフィン繊維を除く）は5%増の5,396万ト。セルロース繊維（アセテートトウを除く）は12%増の483万トと中国を中心に大幅に拡大した。
- 化学繊維の生産は、2009年以降5年連続で拡大した。また繊維全体に占めるシェアは69%と前年比3ポイント上昇した。
- 天然繊維は、綿が5%減の2,564万トと減少した。歴史的な綿花高を受けて2011年に大增産となって以降、需給が緩和し、生産の減少が続いている。羊毛は、オーストラリア、中国、ニュージーランドの三大産毛国が揃って減少見通しにあることから、世界全体では0.6%減と減少が見込まれる。

図-1 世界の主要繊維の生産

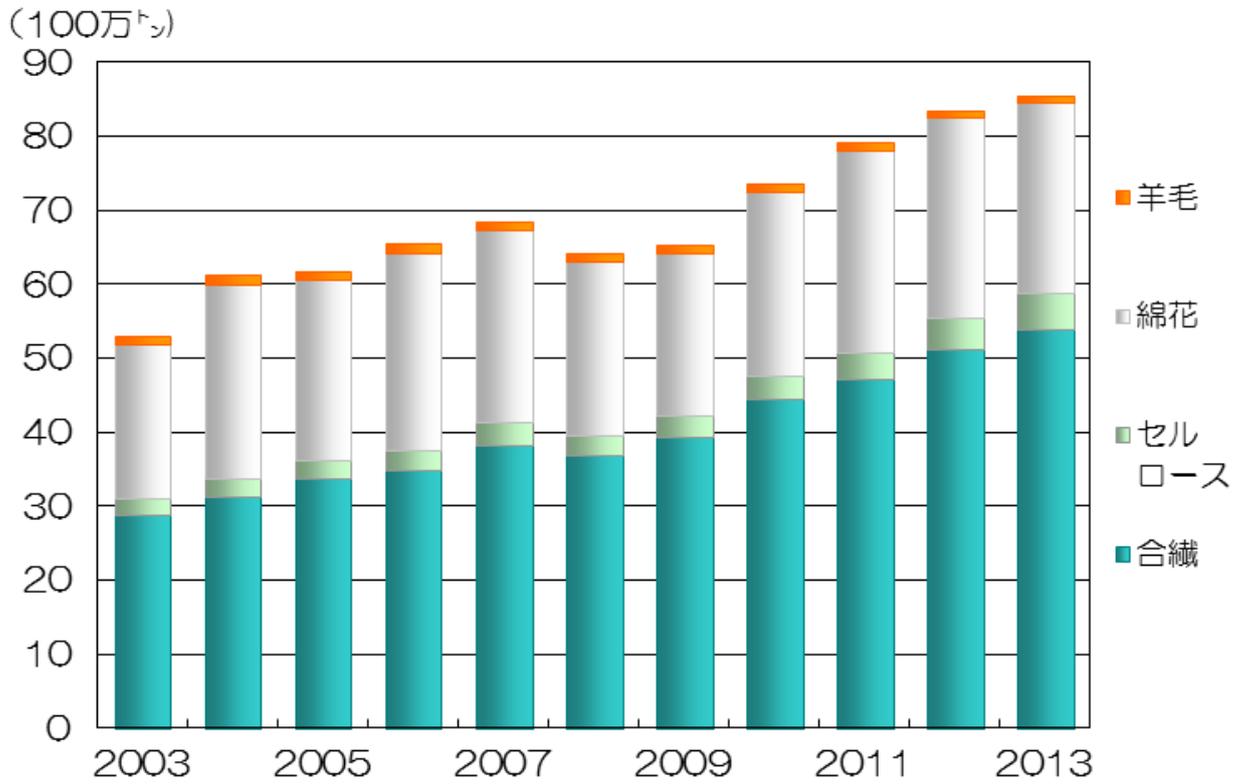
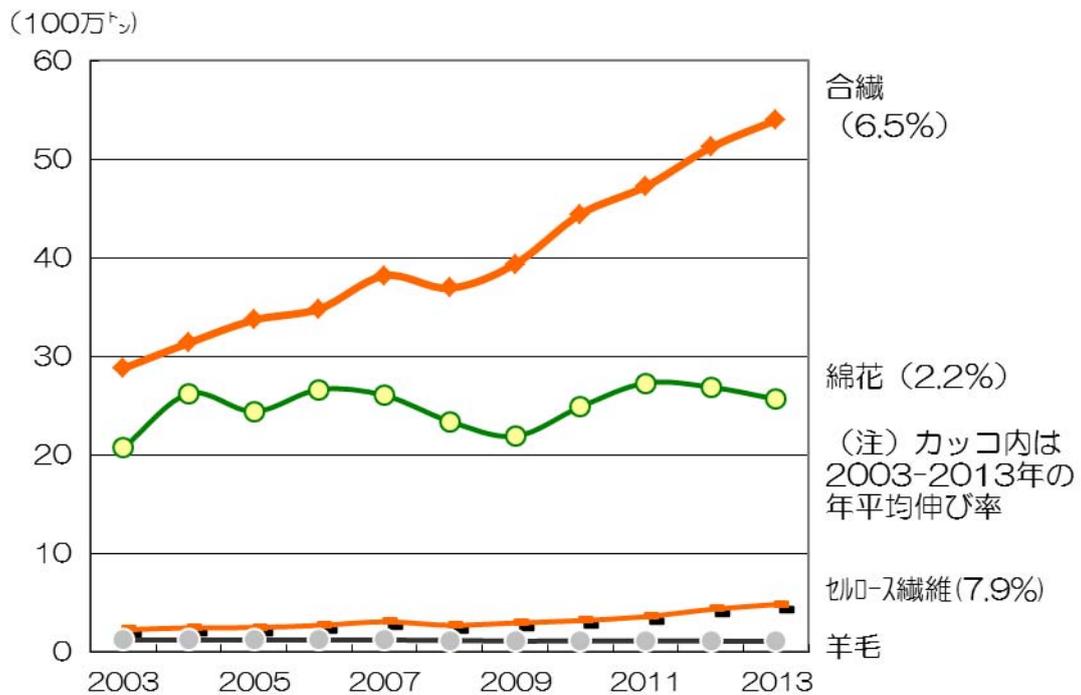


図-2 世界の主要繊維の生産推移



2. 世界の化学繊維生産

- 主要国・地域別に化学繊維生産をみると、最大生産国の中国は前年比8%増と増加を続けている。またインド、ASEAN、米国が増加した一方、西欧、韓国、日本は減少した。

表-2 主要国・地域の化学繊維生産(2013年)

(1000ト)

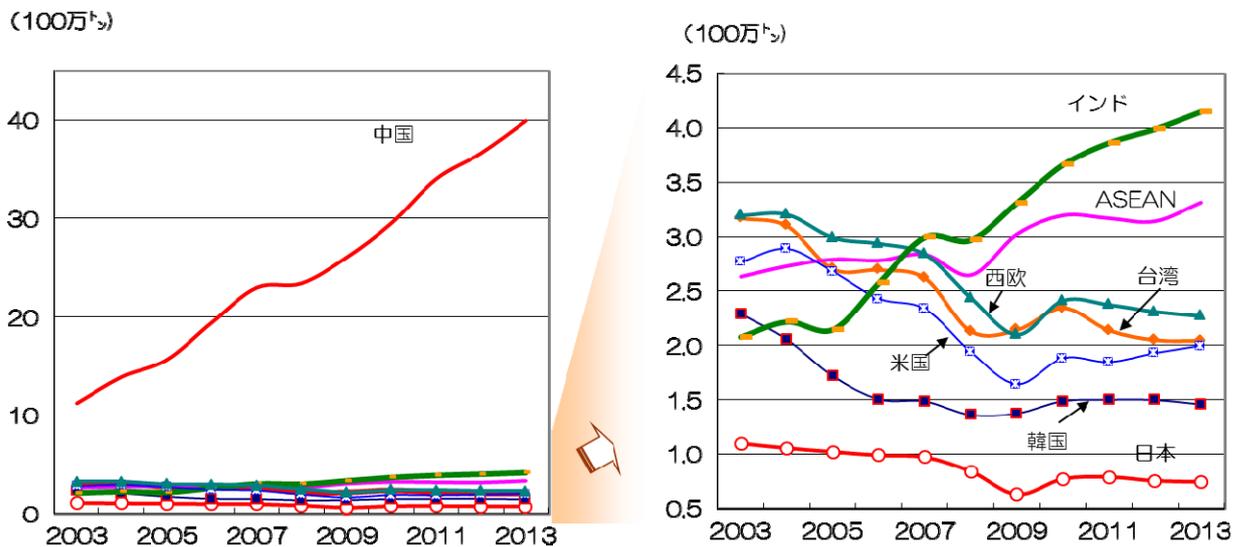
地域	ポリエステル		ナイロン	アクリル	合織 計	セルロース 計	化織 計	構成比 (%)
	フィラメント	ステープル	S+F	S				
日本	151 -9.4	143 -5.8	96 -2.9	147 5.4	675 -2.4	62 -0.3	736 -2.3	1.3
韓国	742 -2.7	533 0.5	128 -2.7	55 18.3	1,458 -2.7	0 0.0	1,458 -2.7	2.5
台湾	930 0.2	561 -3.0	344 -1.1	69 1.4	1,923 -1.4	119 20.9	2,042 -0.3	3.5
中国	23,919 8.2	9,487 5.2	2,191 7.8	694 0.2	37,291 7.0	3,145 15.1	40,436 7.6	68.8
ASEAN	1,386 5.0	1,066 7.9	140 1.1	125 0.0	2,716 5.7	599 5.2	3,316 5.6	5.6
インド	2,495 4.6	1,055 1.5	91 -0.8	88 12.1	3,733 3.8	415 6.2	4,148 4.0	7.1
米国	617 9.4	645 0.9	601 6.2	0 0.0	1,973 3.6	26 1.8	1,999 3.5	3.4
西欧	430 5.4	502 0.2	330 -9.1	560 0.2	1,848 -2.6	422 2.6	2,270 -1.7	3.9
世界計	31,213 7.0	15,105 4.4	4,286 2.1	1,977 1.6	53,957 5.4	4,827 11.5	58,785 5.9	100.0

(注) 1.上段は生産量、下段は前年比(%) 2.推定を含む
3.オレフィン繊維、アセテートトウを含まない

- 中国は7%増の4,044万ト。世界生産に占める割合は前年の67%から69%に拡大した。大增設したセルロース繊維が15%増、合織は品種ごとにまだら模様ながら、全体で7%増となった。
- 中国のほかに前年を上回った主要国・地域は、ASEAN、インドが5%前後の増加となった他、米国が住宅着工の増加でカーペット用のポリエステルやナイロンの好調により4%増と増加基調が続いている。

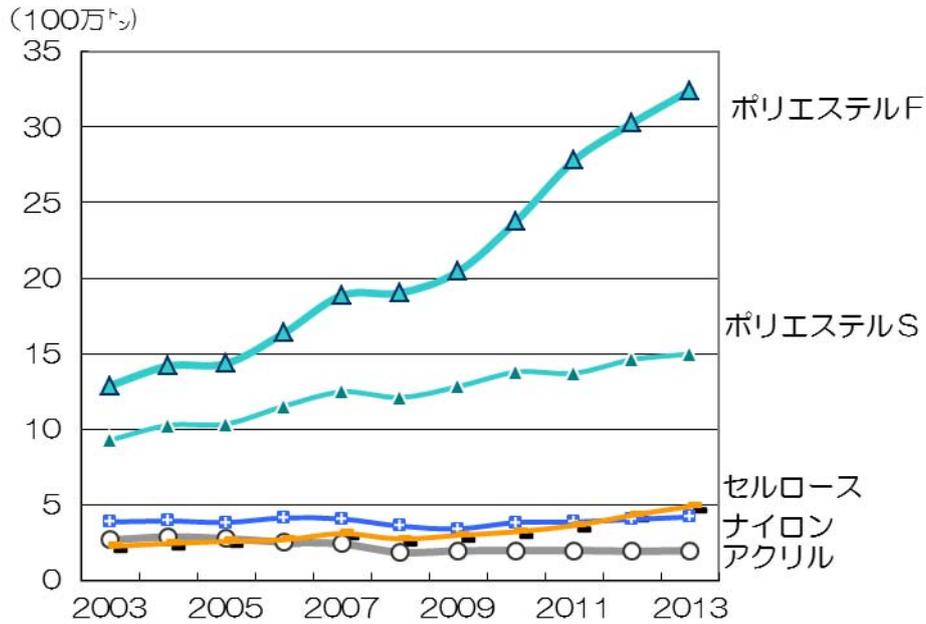
- 一方、西欧、韓国、日本は2%前後減少した。経済不振の西欧はナイロンF、韓国は主力のポリエステルFの影響でいずれも減少した。日本はアクリルが5%増と好調だったものの、ポリエステルとナイロンが減少し、全体で2%減となった。

図-3 世界の主要国・地域の化繊生産



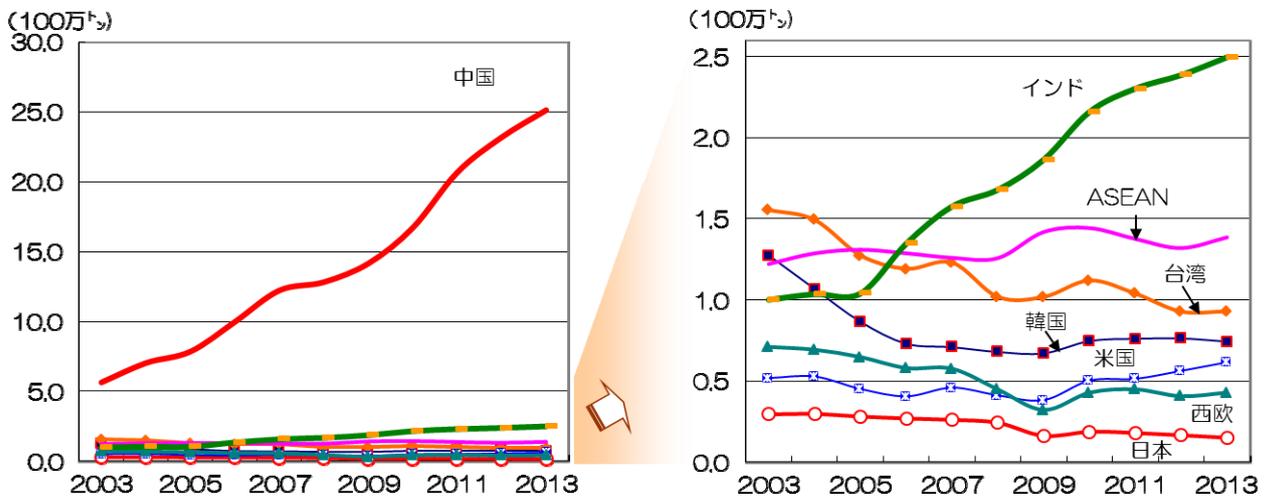
- 主要品種別にみると、いずれの品種も増加となった。
- ポリエステルは、フィラメントが前年比7%増の3,121万ト、ステープルが4%増の1,511万トであった。フィラメント、ステープルをあわせたポリエステルの化繊生産に占める割合は79%と2012年から横ばい。
- ナイロンは2%増の429万ト。フィラメントは主要生産国の中国と米国が増加し、4%増となった。ステープルは3%減。
- アクリルSは2%増の198万ト。主要生産国の中国（0.2%増）や西欧（0.2%増）が微増であったのに対し、日本（5%増）は中国向けフェイクファー用輸出が好調で増加した。
- セルロース繊維は12%増の483万ト。中国が15%増の315万トで、3年連続で2桁の増産となった。世界のセルロース繊維の生産はこの10年で倍増した。

図-4 世界の主要化繊品種の生産推移



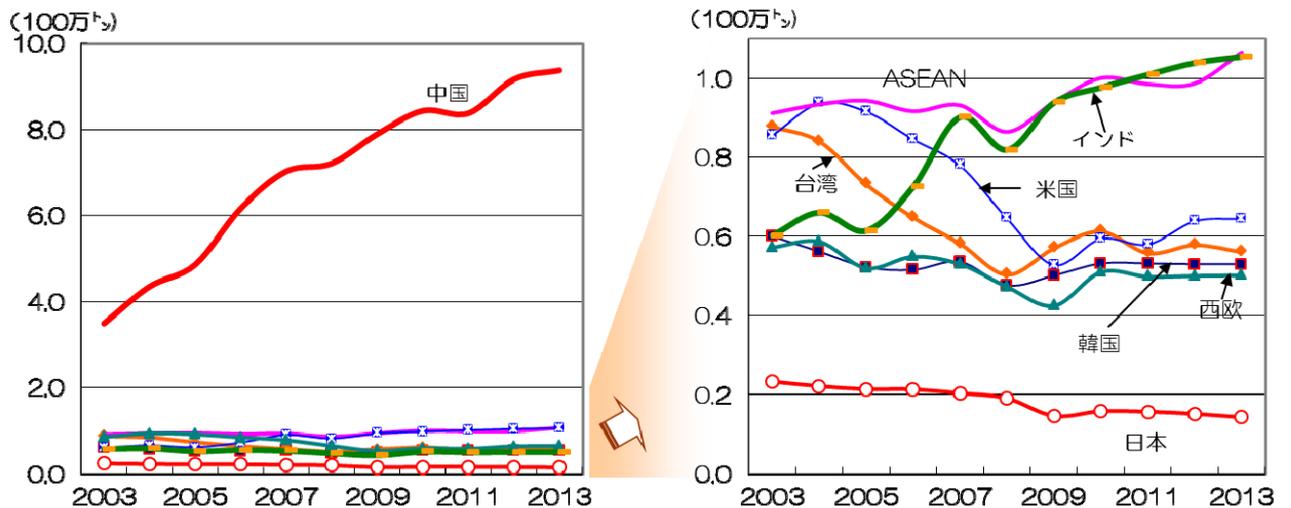
- ポリエステルF：前年比7%増の3,121万トと過去最高で、3,000万トを突破。増設が相次ぐ中国が8%増、またカーペット用が好調な米国が9%増となるなど主要生産国の多くで前年を上回ったが、韓国（3%減）や、一部事業撤退のあった日本（9%減）は減少した。

図-5 世界の主要地域別ポリエステルF生産



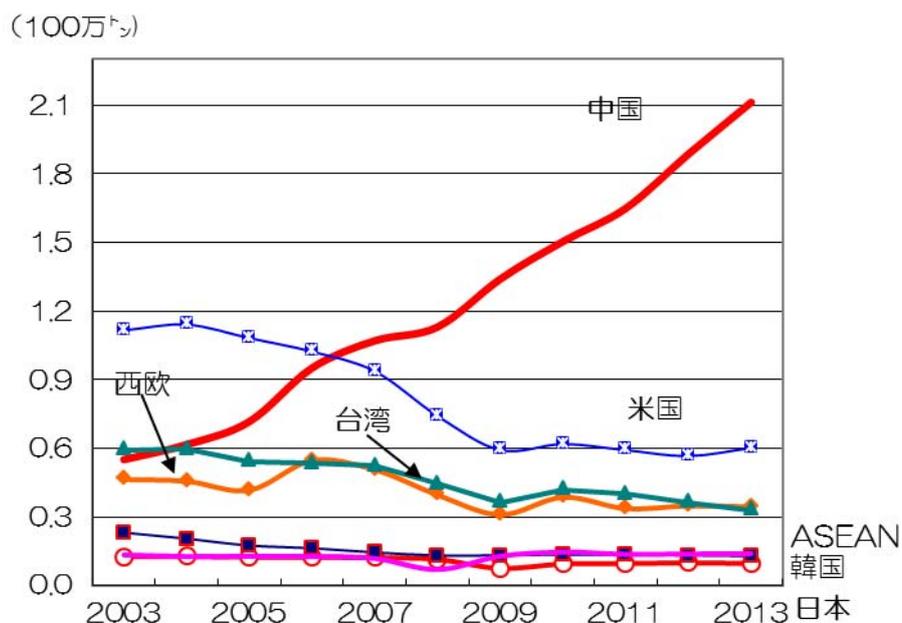
- ポリエステルS：前年比4%増の1,511万ト。中国は5%増となったほか、ASEANでは、洪水の影響から復旧したタイ等が増加し、8%増となった。一方、日本は6%減、台湾は3%減となった。韓国、西欧、米国はほぼ横ばい。

図-6 世界の主要地域別ポリエステルS生産



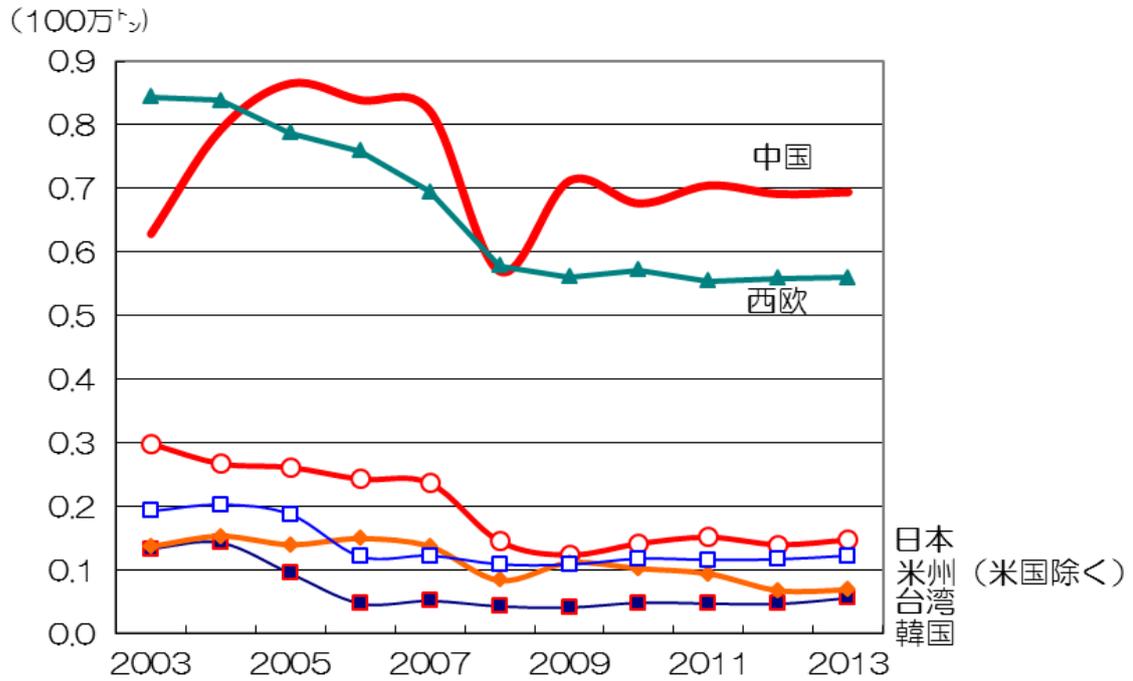
- ナイロン：前年比2%増の429万ト。中国が8%増と増加基調を継続。欧米では、米国がカーペット用の好調で6%増と増加した一方、西欧が9%減と減少した。

図-7 世界の主要地域別ナイロン生産



- アクリルS：前年比2%増の198万ト。主要生産国の中国および西欧が横ばいなのであったのに対し、日本（5%増）が増加した。

図-8 世界の主要地域別アクリルS生産



3. 日本の化学繊維生産

- 2013年の日本の化学繊維生産は前年比横ばいの98万トン(オレフィン、アセテートトウを含む)となった。内訳では合繊が横ばい、セルロース繊維が微減となった。

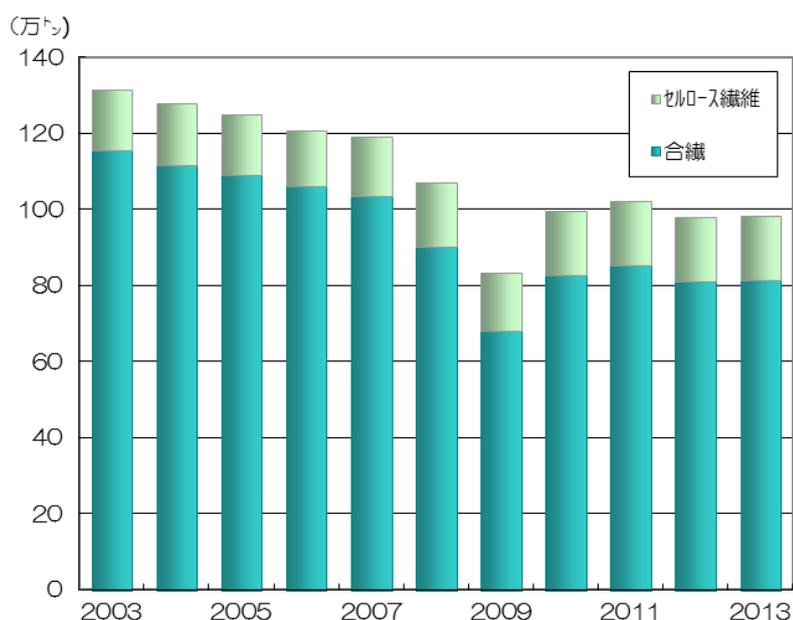
表-3 日本の主要化学繊維の生産

	2010	2011	2012	2013	13/12%
	(1000トン)				
ポリエステルF	188.5	180.8	167.0	151.3	-9.4
ポリエステルS	158.4	157.1	151.5	142.8	-5.8
ナイロンF	93.0	95.0	98.1	95.4	-2.8
アクリルS	141.5	151.6	139.9	147.3	5.4
ポリプロピレン	114.5	120.8	120.8	131.5	8.9
合繊計	829.4	854.4	811.4	812.2	0.1
レーヨンS	33.8
アセテート	116.5
セルロース計	168.7	167.9	168.7	167.5	-0.7
化繊計	998.0	1,022.3	980.1	979.7	0.0

(出所) 経済産業省

(注) オレフィン、アセテートトウを含む。

図-9 日本の化学繊維生産推移



- 合成繊維の生産はほぼ横ばいの81万ト（0.1%増）。主要品目では、中国内需用のフェイクファー向けが好調であったアクリルSが5%増となった他は、ポリエステルはフィラメントが9%減、ステープルが6%減、ナイロンFが3%減といずれも減少した。一方、衛材用不織布向けが好調であったポリプロピレンが9%増となった。
- セルロース繊維の生産は微減（0.7%減）の17万ト（2011年の経産省の統計品目見直しにより、品目別内訳は不明）。

図-10 日本の主要化合繊生産

